

(第3種郵便物認可)

松本市内

松本市水汲の柳沢林業(原兼社長)はこのほど、同市惣社の民家の庭で、樹齢約150年のクロマツの根元に炭と菌根菌を与える松くい虫対策を行った。5年ほど前から取り組む松枯れの予防策で、同社として8例目の措置となった。

木の周囲に深さ20〜40センチの溝を掘って古い根を断ち切り、溝に土壌改良用の炭や根に付いて共生する菌をまいた。同社の樹木医・若林悠平さんによると、土壌の通気性や通水性

市街地で松くい虫対策

柳沢林業 根元に炭や菌根菌

が高まるほか、切られた根から新たに生える根に菌根菌が付くことで水や栄養分の吸収もよくなり、樹勢が回復する。結果として松枯れを引き起こすマツノザイセンチュウを退ける樹液の分泌も盛んになるといふ。

松くい虫対策は山林に加え、市街地でも被害が出始めており、松本ロータリークラブが昨年からは市内で実態調査を行うなど関心が高まっている。原社長は「大切なのは樹勢をいかに取り戻すかだ。松の地下の環境を改善し、松枯れを予防する

手法がより発展すれば」と願っていた。

(小岩井貴之)



クロマツの根の周りに掘った溝に炭や菌根菌をまく柳沢林業の原社長